

令和三年十月一日 信者心の道勉強会

神 示

使者供丸齋の救世人生 その歩みを見詰めて

「真実の愛」を共感する

人間は 多くの出会いを重ねて

「真実の愛」が見えてくる

なれど 今^{今日} 出会いは浅く 会話に深まりがない

家族の関わりも薄れ 無関心に生きている

信者に申す

使者供丸齋の心に映った現実を 共感できるかや

社会を「正道」へ導くための

三つの任が分かっていようか

神の实在を世に示し

「真理」に生きる価値を社会に教え

真実「神魂の時代」へと

救世の環境をつないだ「人生」

この功績をたたえて 今は神 代神供丸齋命^{ごみまらむらさきのみこと}

信者は 「教え」に悟りを深め

社会を「正道」へと導く人^{存在}を目指す

この思いが 「真実の愛」を芽吹かせ

多くの出会いを深めてゆく力^{存在}となる

—— 仕合せの基^{こゝろ}は 和のある家庭 ——

この一言^{いちごん}に 救世の真実があると気付くべし